

滋賀大学ビジネスイノベーションスクール

1. はじめに

滋賀県は大手製造業の研究所やマザー工場が集積し日本を代表する工業県であるが、近年グローバル化の影響で製造業の売上高、雇用は減少を続けている。政府も地方創生を掲げ強力な支援を開始した所だが、今後は、本業を維持強化するとともに、新たに成長が見込める地域資源を活用した新しいビジネス(生活文化、環境、農業、余暇、福祉医療、教育、都市開発など)を生み出すことが重要となっている。新しいビジネスは、新たな発想、生活者視点で事業機会を発見し、異業種の既存要素を組み合わせながら、ビジネスモデルを構築していくことが重要である。

そのような認識の下、滋賀大学では平成27年度から相互の交流と戦略的ビジネスプランの策定を通じて、次世代経営者層等の事業創造力、実践力の向上を図ることを目的に「滋賀大学ビジネスイノベーションスクール」を開設した。

本稿は、第3期となる平成29年度の状況について報告するものである。

2. ビジネスイノベーションスクールの特徴

ビジネスイノベーションスクールの特徴は、次のとおりである。前半の講義でビジネスプラン策定の基礎知識を学び、具体的な事業を構想し、チーム議論を通じてビジネスプランを立案するという実践的なプログラムとなっている。

- ①イノベーションを起こす新事業のビジネスプラン作成に関する実践的な知識を提供
- ②注目経営者から新事業創造に関する講義を提供
- ③実現を図る具体的な事業を構想しチーム議論を通じてビジネスプランを立案
- ④社会人が受講しやすい時間帯、場所で開講
- ⑤修了者に滋賀大学履修証明を発行

3. 概要

(1) 対象

中堅中小企業の次世代経営者層(事業継承者等)、大手企業のマネージャーなど新事業創造に強い関心を持っている方

なお、学生の場合はレポート審査を行った上で選抜する。

(2) 場所、日程

場所 滋賀大学大津サテライトプラザ(JR 大津駅前日本生命大津ビル4F)

10:00～15:00(1時限:10:00～12:10、2時限:12:50～15:00)

(3) 定員 15名(先着順)

(4) 受講料 社会人72,000円、学生(社会人大学院生を除く)3,600円

(5) 修了者に対する証明

修了者には、「ビジネスイノベーター」として滋賀大学から履修認定を行う。認定は、①2回のレポートの評価、②出席率(8割以上、講義形式の授業は動画による後日講習が可能)、③受講中の評価をあわせて、「ビジネスイノベーター認定委員会」が行う。

(6) 体制

主催: 滋賀大学社会連携研究センター

協力: 滋賀県

後援: (一社) 滋賀経済産業協会、滋賀経済同友会、滋賀県産業支援プラザ、(株)しがぎん経済文化センター、滋賀県中小企業家同友会

4. 平成 29 年度実施成果

(1) 平成 29 年度実施プログラム

図表1のとおりである。

図表1 平成 29 年度実施プログラム

| 日付 | テーマ | 内容 | 講師 |
|----------|--------------------------|---|---------------------------|
| 8月19日(土) | 開校式 | | |
| | 1. イノベーションのためのビジネスモデル | 生活者視点によるビジネス創出に必要なプロセスとビジネスモデルについて学びます。重要な概念について概説した上で、ビジネス創出の一連の流れとツールについて演習を通して学びます。 | 伊藤智久(滋賀大学社会連携研究センター客員准教授) |
| 9月2日(土) | 2. ビジネスモデルの仮説構築・検証 | ビジネスモデルの仮説の構築と検証方法について学びます。特に、ビジネスモデルキャンバスおよびバリュープロポジション・キャンバスを用いた仮説の書き方と、インタビュー調査による仮説の検証について学びます。 | 伊藤智久 |
| 9月16日(土) | 3. イノベーションのための組織とリーダーシップ | 新しいビジネスの創出に必要な組織とリーダーシップについて学びます。特に、議論のファシリテーションやチームでの意思決定、リーダーシップの発揮の仕方について学びます。 | 小野善生(滋賀大学経済学部准教授) |
| | 4. ビジネスイノベーター講話 | 生活者視点で新しいビジネスを創出した経営者から、実体験に基づいて講義し、ビジネス創出の実態を学びます。 | |
| 9月30日(土) | 5. 滋賀県創業起業支援制度の紹介 | 滋賀県における創業、起業のさまざまな支援制度を紹介します。 | 武村智司(滋賀県中小企業支援課課長) |
| | 6. ビジネスプラン研究に向けたアイデア創出 | ビジネスプラン研究に向けて、受講生がビジネスアイデアを発表します。発表したアイデアについて、受講生が互いに磨き合います。 | 伊藤智久 |

| | | | |
|--------------------|---------------------|--|---|
| | 7. ビジネスプラン研究 | 以降、チームでビジネスプランの策定を行います。企業チームまたは個人での策定も可能です。毎回、受講生がビジネスプラン研究の進捗を報告します。想定していた仮説の検証結果について報告した上で議論をし、講師陣から助言を受けながらプランを修正・改善していきます。 | 講師陣 |
| 10月14日(土) | 8. ビジネスプラン研究 | 7と同上 | 講師陣 |
| 10月28日(土) | 9. ビジネスプラン研究 | 7と同上 | 講師陣 |
| 11月11日(土) | 10. 事業の収支予測と資金調達 | 新しいビジネスの創出に必要な収支予測と資金調達について学びます。特に利益の出し方や収支の予測モデル、様々な機関からの資金調達の方法について学びます。 | 近兼敏(滋賀大学社会連携研究センター特任教授) |
| | 11. ビジネスプラン研究 | 7と同上 | 講師陣 |
| 12月2日(土) | 12. ビジネスプラン研究(中間発表) | 7と同上 | 講師陣 |
| 12月23日(土) 15~18 | 13. ビジネスプラン報告会、修了式 | 受講生がビジネスプランについて報告します。企業経営者やベンチャーキャピタルやインキュベーター等の外部審査員を招き、ビジネスプランの審査を行い、優れたプランは表彰します。なお、講座終了後も、ビジネスプラン実現に向けて適宜助言します。 | 北村 邦彦(株式会社しがぎん経済文化センター主席研究員)、武村智司、講師陣、他 |

(2) 担当講師

伊藤智久(スクール長、滋賀大学社会連携研究センター客員准教授、明星大学経営学部准教授)

竹中厚雄(滋賀大学経済学部准教授、社会連携研究センター副センター長)

小野善生(滋賀大学経済学部准教授)

近兼敏(滋賀大学社会連携研究センター特任教授)

石井良一(滋賀大学社会連携研究センター教授)

(3) 受講生及び地域活性化プランナーの認定

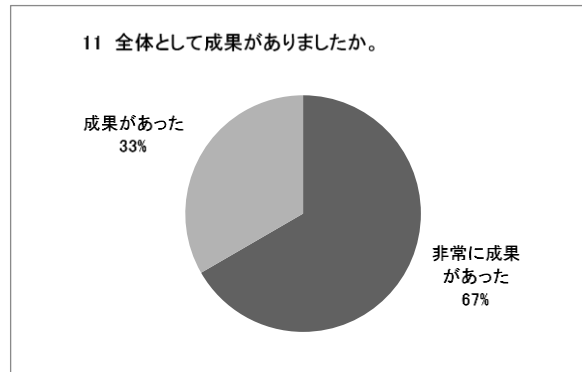
社会人4名が受講した。4名が3つのビジネステーマについて、最後までビジネスプラン策定に取り組み、全員をビジネスインベーターとして認定した。

5. 受講生の評価

受講生を対象に、本スクールへのアンケートを実施した。授業の回数、難易度、課題やレポート等の作業量、評価、成果等について率直な意見が寄せられた。成果については、多くの受講生が「成果があった」と評価している。

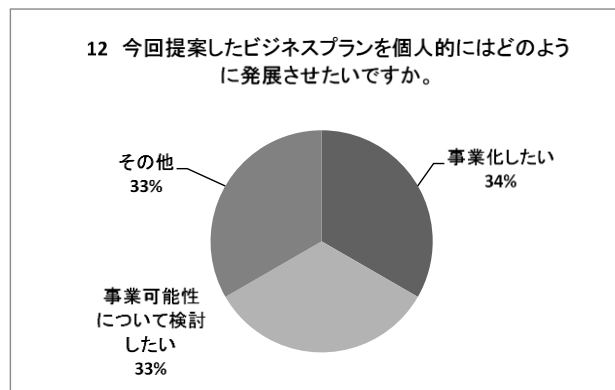
図表2 受講者の評価

| 11. 全体として成果がありましたか。 | | |
|---------------------|------------|---|
| 1. | 非常に成果があった | 2 |
| 2. | 成果があった | 1 |
| 3. | あまり成果がなかった | 0 |
| 4. | 成果がなかった | 0 |
| 5. | その他 | 0 |



- ・ビジネスプランニングをするなかで、顧客のニーズを考えることが出来た。
- ・ビジネスモデルについて理解が深まったこと。また仮説検証の重要性を認識でき、今まで以上に行動力も身についたと思います。

| 12. 今回提案したビジネスプランを個人的にはどのように発展させたいですか。 | | |
|--|----------------|---|
| 1. | 事業化したい | 1 |
| 2. | 事業可能性について検討したい | 1 |
| 3. | これ以上の検討は難しい | 0 |
| 4. | その他 | 1 |



6. 今後に向けて

今年度は4名の参加者で、3グループに分かれて精力的にビジネスプラン作成に取り組み、多くの方から高い評価を受けた。2グループの提案は、近い将来の事業化を想定している。また、これまでの受講生の中から、1名が起業し、1名は会社の新規事業として取り組んでいる。

こうしたことから本スクールは実践性が高いプログラムであるといえよう。しかしながら、当初想定していた程受講生は集まらず、自立的な運営が困難であることから、次年度は、本スクールとしては一旦休止をすることとした。別の形でのプログラムとして再考したい。これまでの受講生に対しては、今後とも継続的に支援をしていく所存である。

(文責 教授 石井 良一)